

熊野洋著「遙かなる大地、イリヤーの物語、第二部」草思社 2002年7月22日刊を読む

## 第2の産業革命

1. なにをやるにもカネがいる。でも、俺が言ってるのは、賄賂とか政治資金とか、そういうことじゃない。それもあるがな、もちろん。
2. それより大事なのは、この国の経済を建て直すことさ。第2の産業革命が必要なんだ、この国は。武器しか作ってこなかったこの国の経済を、国民が買えるものを作る経済に変えなきゃならない。そのためにはカネが必要だ。
3. 国民の預金を動員しなきゃならない。まともな銀行が必要なんだ。それに、外国に逃げたロシアの資本を、呼びもどさなきゃならない。
4. 俺たちの社会じゃ、企業家が敵視されている。物を作る者は社会の敵、国民の富をくすねる者、というわけだ。彼らは国民から憎まれ、役人からはがんじがらめにされ、食べ物にされている。国民は国民で、ちょっとまじな仕事にありつけばたちまち安心して怠けだす。
5. この不信と妬み、腐敗と怠惰の輪をずたずたにたたき切って、風通しのいい社会を作らなきゃならないんだ。でなきゃ、外国の資本もきやしない。投資は慈善じゃないんだ。

### [コメント]

ロシアをどうしたらよいかだけでなく、発展途上国をどうしたらよいかを考えさせる現職の外交官による好著。小説形式なので読みやすい。

- 2009年2月6日林明夫記 -